

生活定点データトピックス [Vol.3]

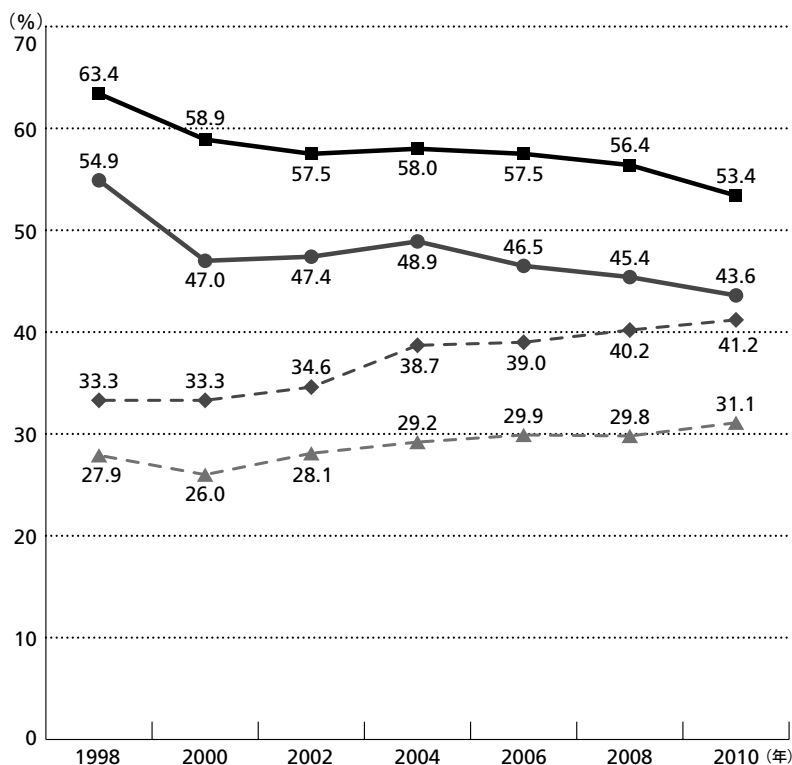
～博報堂生活総合研究所調査より～

家庭での“男力”復権中。

- ・「昔に比べて子供に対する父親の力は落ちたと思う」(1998年63.4% → 2010年53.4%)、「昔に比べて妻に対する夫の力は弱まったと思う」(1998年54.9% → 2010年43.6%) がともに、過去“最低”。
- ・逆に「男性でも、育児休暇は取るべきだと思う」(1998年33.3% → 2010年41.2%)、「夫も家事や育児を優先すべきだと思う」(1998年27.9% → 2010年31.1%) でともに、過去“最高”。

博報堂生活総合研究所では、生活者の意識や行動の変化から将来の価値観や欲求の行方を予測するため、同じ条件の調査地域・調査対象者に対し、同じ質問を繰り返し投げかける定点観測型のアンケート調査「生活定点」を2年に1度、実施しています。この度、「生活定点」調査の時系列分析から、生活者の意識・価値観の大きな変化を発見しましたので、ご紹介いたします。

- 昔に比べて子供に対する父親の力は落ちたと思う
- 昔に比べて妻に対する夫の力は弱まったと思う
- ◆- 男性でも育児休暇をとるべきだと思う
- ▲- 夫も家事や育児を優先すべきだと思う



父親の力、夫の力ともに、復権中。

「昔に比べて子供に対する父親の力は落ちたと思う」は1998年の63.4%をピークに続落。2004年に一旦上昇に転じますがその後は下降の一途をたどり、今年は2008年(56.4%)からさらに3ポイント減少して、“最低”値(53.4%)を記録。同じく「昔に比べて妻に対する夫の力は弱まったと思う」も1998年の54.9%をピークに下降傾向へ。2004年に48.9%まで持ち直しますが、その後は減少に転じ、こちらも今年は43.6%と“最低”値を更新しました。父親として、夫として、家庭での男性のプレゼンスは確実に上昇しているようです。

男性に家庭へのコミットメントを求める意識が上昇。

一方で、男性に家事分担や育児参加を求める意識も高まってきています。2000年以来「夫も家事や育児を優先すべきだと思う」や「男性でも、育児休暇をとるべきだと思う」の数字は上昇を続けており、それぞれ今年は過去“最高”値となりました。家庭での男性のプレゼンスアップの背景には、家事分担や育児参加を通じて、家庭へのコミットメントを高める男性の姿がありそうです。

※ 生活者の意識・価値観の大きな変化は、今後も「生活定点データトピックス」シリーズとして、毎月発表する予定です。

本件に関する
お問合せ先

株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所
株式会社博報堂 広報室

吉川・夏山 TEL: 03-6441-6450
西尾・山野 TEL: 03-6441-6161

博報堂生活総合研究所「生活定点」調査について

■ **調査概要** 1992年の調査開始から2年に1度、同じ条件の調査地域・調査対象者に対し、同じ質問を繰り返し投げかける定点観測型アンケート調査として実施。その結果から、生活者の意識や行動の変化を時系列で捉え、将来の価値観や欲求の行方を予測することを目的としている。

■ **調査地域** 首都 40 km圏
阪神 30 km圏

■ **調査対象者** 20歳～69歳の男女

■ サンプル数 (有効回収)	1992年	1,976名
	1994年～2002年	2,000名
	2004年	3,105名
	2006年	3,293名
	2008年	3,371名
	2010年	3,389名

男女それぞれ5歳刻みを1グループとし、最も少ないグループでも有効回収数が125人となるように、最新の国勢調査に基づきサンプルの割付を行った。

■ **サンプリング** 該当エリアの町丁目別世帯累積表より、1地点10人前後としたときの地点を等間隔で抽出し、該当地点で対象者を設定した。

■ **調査方法** 訪問留置法

■ **調査時期** 偶数年5月
(最新データは2010年5月11日～2010年5月31日)

■ **調査項目** 衣、食、住、健康、学び、働き、家族、恋愛・結婚、交際、贈答、消費・お金、情報、メディア、社会意識、日本の行方、国際化と日本、地球環境など
1,492項目。(2010年時点)

■ **設計・分析** 博報堂生活総合研究所

■ **実施・集計** 株式会社 東京サーベイ・リサーチ

生活定点URL <http://seikatsusoken.jp/teiten/>

発行のご紹介

生活定点 2010 データブック (CD-ROM)

発行所：株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所
判型：A4判／CD-ROM Windows版（日英併記）
価格：31,500円（税込）
書籍案内およびご購入について <http://seikatsusoken.jp/publication/>

